

医師・鶴見隆史先生、アロパシーに警鐘

UBMジャパン株式会社 健康産業新聞 編集部

協門誉氏

医療法人社団森愛会・鶴見クリニック理事長の鶴見隆史先生が監修する森愛CULB講演会「真実の医療」（運営・㈱イムノカーサ）が10月20日、都内で開催され、医療関係者や健康・自然食メーカーら約130人が参加しました。

「ホルミシスとマイナスイオンの魅力」と題して登壇した鶴見先生は冒頭、「人間は誰でも波長を出しています」と語り、薬物や放射線、手術などで治療する「アロパシー」に対し、原因から治していく自然療法の「ナチュロパシー」の重要性を強調されました。

また、アロパシーである抗がん剤、降圧剤、ステロイド剤、頭痛薬などで目先の対処を求めることの危険性についても解説。「抗がん剤は、一時的にがん細胞を殺しても、血管破壊に伴ってがん細胞の大好きなブドウ糖が浸出し、生き残っ

たがん細胞が耐性を持って、超大増殖を開始してしまうため、治るものも治らなくなる」「降圧剤の欠点は、上は下げるが下は上がり、血流が悪くなるため、認知症や脳梗塞、パーキンソン病、狭心症、動脈硬化などの副作用に繋がる」「コレステロールが脳に23%ないと、幸せホルモンと呼ばれるセロトニンやアセチルコリンがしっかり働かずうつ病になることがわかっている」「ステロイド剤は、体の中の副腎皮質はペラペラに薄くなり、長期投与の後はいよいよ急死する」「頭痛薬は、次の頭痛に繋がって埒が明かず、いつまで経っても解放されない。根本である腸の腐敗を治し、臭くない大便を毎日大量に出すと治る」など、参加者にも理解できる多くの言葉で警鐘を鳴らしました。



今回のテーマであるホルミシスとマイナスイオンについては、「ホルミシスとは、微量の放射線のこと。放射線は微量でも体に悪いというのは昔の誤った常識。地球上では常に「自然放射線」が放出されており、この自然放射線の10〜100倍の放射線を浴びると、新陳代謝が向上し、免疫機能の促進、抗酸化物質の増加などがみられる」と語りました。また、「ホルミシスが空气中に放出されると、多量のマイナスイオンが発生するといわれている」「プラスイオンはベータ波で酸化力、マイナスイオンはシータ波で還元力」「寒冷前線や低気圧はプラスイオン」「病院は耐震性の関係でコンクリート2重構造のためプラスイオン」「森林や滝はマイナスイオンであり、波長もマイナスイオンの時代」など、マイナスイオンと健康の関係についても紹介されました。

このほか、現在治療でロシアの波動機器『メタトロン』を使用していることや、毛髪（毛先から2〜3cm、50〜60本）で健康レベルを分析し、点数化して出す装置『PRA検査機器』を新たに導入予定であることなどを報告しました。さらに、高圧の活性化したエアールを特殊なセラミックに当てた振動をそのまま特殊な先端構造から出し、脳幹をリラックスさせて自律神経のバランスを整える機械『ニューDr.エアバランス』も紹介しました。この機械は、顔の額にある第三の目や、脳天の百会に吹きかけると、イライラ波長であるパルス波やベータ波が、鎮静の波長であるシータ波やスローアルファ波になるとのことです。講演では、実際の人や動物で治療した際の写真や脳波形の事例を出して紹介しました。

講演の後半では、抗がん剤やホルモン剤など酵素阻害作用のある薬を止め、ファステイングで体内の毒素を排出した後、抗酸化力の高い野菜やフルーツなどを中心とした「ビーガン」食が海外で先行している例に触れ、先生の患者様や希望者で実施している「ファステイング合宿」についても紹介されました。

